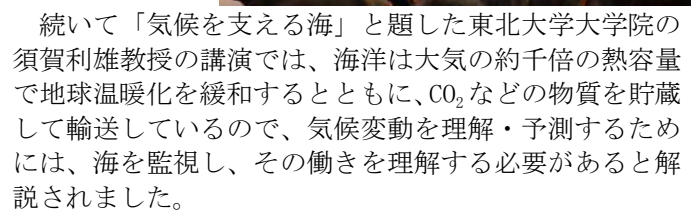
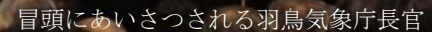


◇ 平成24年度気候講演会を開催

まず、「海の自然変動と異変」について科学ジャーナリストの瀧澤美奈子氏が、サンゴの白化など地球温暖化に伴う異変が起きている例を示され、「海洋国家」である日本は気象や水産資源とも密接に関係している海を観測・監視する必要があると講演されました。



気象研究所地球化学研究部石井第二研究室長の講演では、気象庁が営々と続けてきた観測研究成果を基に、海洋域における CO<sub>2</sub> の吸収により海洋の酸性化が進み、将来において生物の多様性が失われ、様々な生物資源が失われる恐れがあると指摘されました。

本講演会は、立見の方も出るほどの盛況となり、海洋が気候に及ぼす影響の大きさを再認識するよい機会となりました。